



ゆのみは、いっぱいだとあふれちゃうけど のめば また新しいお茶が入る

お茶を飲む湯飲み茶碗から名づけた「ゆのみ会」。気持ちが落ち込んだり悩んだりしてゆのみからあふれそうになった時、人の話を聞いたり、自分の思いを伝えることで気持ちが落ち着くこともあります。そのような場をつくろうと、2004年に小学校の先生が産休中に設立しました。最初は友達に声かけをして2人から3人で始めた集まりが口コミで広がって行ったそうです。「それまでバリバリ仕事をしていたのが、子育てを始めたら家庭の中で子どもと二人きりの生活になり、特に子供ができる“〇〇ちゃん”と子どもの名前や“奥さん”と言われて自分の名前が呼ばれなくなり、自分の存在発見みたいなことからこの会を発足したようです。」と設立して3ヶ月目頃に誘われて参加した、現在代表の鈴木富美代さん。

毎週火曜日は「ゆのみ会」の定例会。午前10時30分、会場であるひたちなか市の中心部にある大島のコミュニティセンターには、子供を連れてお母さんが続々と集まってきました。話しをするのに落ち着いた場がどこかないかと探し見つかったのがこのセンター。会場になっている児童室は一般にも解放されて自由に遊べる場になっています。年度初めに申請すれば無料で使え、「ゆのみ会」として予約をしていますが、誰でも飛び入りで参加できるそうです。



フリートーキングは話題も多彩

子供たちのためではなく 自分たちのためのコミュニケーションの場

この日は14組(その後4組増えて計18組)の親子が参加していました。最初に副会長の鈴木育子さんが折り紙を始めました。子どもたちが集中して落ち着いたところで、フリートーキングの始まりです。子どもたちの様子をみながら順繰りお話をします。話題も様々、豊富な内容に笑いや驚き共感の声があがります。各自が持参した飲み物やおやつを食べながら自由な雰囲気です。一通り話しが終わると昼の12時、最後に絵本の読み聞かせをして終了となりました。

副代表の鈴木さんが、毎回のフリートーキングの内容をまとめたものを中心に掲載し発行している“ゆのみ会だより”は98号を数えます。



絵本の読み聞かせには子供も集中

「ゆのみ会」は最低5組から多いときは25組くらいの親子が参加しています。誰でも自由に参加でき、特に登録はしていません。運営は皆でやろうと分担し、今は10人くらいのメンバーが中心で自発的に運営しています。集まって来る方は大島地

区に限らず市内全般です。ホームページや口コミ、別のサークルで知り合って誘い合ったりして増えています。ひたちなか市は企業立地の関係で県外から来た人も多く、現在参加している半分以上の人は県外の出身者だそうです。

「子供たちのためにやっているのではなく、自分たちのためにやっているから続いているのだと思います。自分の存在を確かめたり自分を明るくしたり、情報交換をする場なのでみんな自発的にやっているのかなと思います。私も会長を引き継ぐときにみんなで作ろうねということで運営してきました。」と代表の鈴木さん。

地域の公園情報を満載した小冊子を発行

「ゆのみ会」では、“はんどちゃん”の助成を受けて、ひたちなか市大島地域にある公園の情報をまとめた小冊子「公園情報」を発行(平成18年3月)しました。毎月第4火曜日は会場が使えないので、いろいろな公園で集まりを開き、参加者が普段行っている公園の情報を集めてまとめたものです。この情報誌は支援センター、福祉センターや各サークルの



大島地域の全公園の情報満載の小冊子「公園情報」と毎回発行される「ゆのみ会だより」

代表の方や、希望する方にはさしあげているそうです。



代表の鈴木富美代さん(右)と副代表の鈴木育子さん(左)

「ゆのみ会」は、子供のための子育てサロンではなく、どちらかといえばお母さんたちが自分たちのためにというところが他と少しちがうところで、みんなに自分の気持ち伝えてストレスの解消をして、子育ての情報を共有しながら交流を広めています。若い新米ママのコミュニケーションの場として地域に根ざしています。



この日の参加者全員集合

ゆのみ会

内容 フリートーキング・テーマトーキング・子供と遊ぼう
場所 大島コミュニティセンター(ひたちなか市外野1-1-1)
活動日 火曜日(曜日が変わることも) 月4回
会費 無料
ホームページ <http://www7a.biglobe.ne.jp/~yunomi/index.html>

